

平成28年度
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校卒業
式 祝辞

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47863

平成 28 年度
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校卒業式 祝 辞

平成 29 年 3 月 10 日
金沢大学教育担当理事・副学長
柴田正良

平成 28 年度卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
本日まで、お子様を立派に育ててこられた保護者の皆様にも、心よりお喜び申し上げます。

今、中学の三年間を振り返ってみて、皆さんの心にはどんな思いがあるでしょうか。中学生時代は、人生の中で、最も多感な時期であるとも言われています。その時期に、皆さんは、ここ附属中学校で、日々の授業や学校行事、友人関係などを通して、多くのことを学び、様々な経験を積みました。それらは、これからの人生の中で、貴重な心の糧として、皆さんを支えていくことと思います。

さて、これからの高校生活、一体、どんなことが皆さんを待っているのでしょうか。一番は、新しい知識や能力の獲得だと思います。しかし、新しい知識や能力はなぜ大事なのでしょうか？ それは、これまでにない新しい「物の見方」と、それが可能とするより大きな自由を皆さんに与えてくれるからです。皆さんも良く知っているように、地球の回りを太陽が回っているという天動説をひっくり返したのは、16 世紀、コペルニクスの地動説でした。しかし、コペルニクスは、それによって何をひっくり返したのでしょうか？ 地動説以前には、毎朝、私たちは地平線から昇ってくる太陽を見ていました。しかし地動説以後は、毎朝私たちが見ているのは、動かない太陽に向かって沈むように回転していく地球だということになりました。皆さん、うまく想像できますか？

でも、コペルニクスが地動説によってひっくり返したのは、そういう意味での「物の見方」というよりは、もっと大事なことに、宇宙における人間の位置といった世界観・人間観、つまり人間のアイデンティティに関する「見方」でした。「残念ながら、地球は宇宙の中心ではない。したがって、そこに棲むわれわれもまた、宇宙の片隅に偶然生まれた孤独な存在にすぎない」。およそ、このような価値観の転倒が、地動説によって準備されたとも言えるでしょう。

しかし、そのような「物の見方」の転換が、どうしてわれわれの自由の拡大をもたらすのでしょうか？ それは、新しい「物の見方」によって「より正しい選択肢」、「より良い選択肢」が私たちに開かれるからです。そうした選択肢は、無知なるが故の不運や失敗、愚かな偏見といったものから私たちを解き放してくれます。地動説以降、私たちは天文学や古典物理学や生物学を発展させ、宇宙物理学や量子力学、分子生物学にまで辿り着きました。それらは、人間に本当は何が可能で、何が不可能であるかを教えてくれます。私たちの拡大された新たな自由は、人間に可能なその領域の中にあります。

これから皆さんは、真理への強い欲求と真理を恐れない勇気をもって、新しい「物の見方」と自由の拡大を目指していくものと思います。それは決して容易な道ではありませんが、わくわくするような冒険の始まりでもあります。そんな皆さんのこれからの活躍と幸運を心からお祈りいたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成 29 年 3 月 10 日 金沢大学理事・副学長 柴田正良)